

四、船の中ではどうするか

1. 秘密を守れ

上陸作戦で一番大切な事は我が企圖を匿す事である、どこに上るかが過早に敵に知れると仲々難しくなる。手紙に書いた簡単な事が全軍敗戦の原因になり、或は出發間際にカフェーで一杯飲みながら酒の勢で喋つた事から我が秘密をスパイに知られた例は尠くない。

四十七士が主君の仇を報ずるまでどんなに苦心して秘密を守つたかをよく想ひ起してお互に戒め合はねばならぬ。

今度の事變で南支方面に上陸した部隊の或る兵がビールの空瓶に手紙を書いて封をして海中に流した所、潮流のため朝鮮附近に流れ著いた實話がある、若し浦鹽に流れたらどうなるか、飛行機や潜水艦などが我が輸送船の行動を發見する爲海上に浮んで居る紙屑等から端緒をつかむ事が少くない、汚物や

船の中ではどうするか

一九

0320

船の中ではどうするか

塵の始末はよく規定を守らなければならぬ。

二〇

2. 身邊の整理を十分に

今度の戦争では海の上の行動が多く又上陸後小部隊で深く敵中に挺進する様な場合が尠くないから遺骨が拾へない事も豫め十分覺悟して置かねばならぬ。

「海行かば水づく屍、山行かば草蒸す屍、大君の邊にこそ死なめ、かへりみはせじ」とは昔から日本人の覺悟とし矜りとして來たのである。戰陣に臨む前に遅くとも船の中で必要な遺言を書いて毛髪や爪等を入れ、何時何處で死んでもよい準備を整へ、部隊毎に一括して確實な方法で後方に残す様に身邊の整理を終つて置く事が軍人の嗜みである。

又船火事や浸水の際には身輕で避難しなくてはならぬから銃と水筒とパンだけ持ち救命胴衣を着けて順序よく甲板上に出られる用意を整へて置かねばならぬ。

0321

3. 病氣に罹るな

船の中は大變狭苦しい上に暑さが甚しいから船に酔つたり、酔はない迄も胃腸が弱つて病氣にかかり易い、大勢雜魚寝して居る中で誰か一人傳染病にかつたら大變である、潜水艦や飛行機の攻撃を受けた以上に損害を出し、他人に迷惑をかける様になるから生水を絶対に飲まない事と出發間際の飲食に注意し、船中で怪しいと思つたら早く診斷を受けて手當をしなければならぬ、傳染病を匿して無理して居ると船全部に迷惑をかけ多くの戦友を殺す様な結果になる。

4. 船に酔はない爲には

船に酔はない爲には次の點に注意すればよい。

- (イ) 志氣を緊張し重大な任務を自覺する事
- (ロ) 縦に揺れたら横に寝よ、横に揺れたら縦に寝よ

船の中ではどうするか

二二

三三

0322

船の中ではどうするか

三三

眼は成るべく遠い所を見、船の動搖を氣にかけない事

成るべく遊戯其の他に依り氣分を轉換する事

船に弱いものは腹を緊縛して呼吸法をすれば船の中でも舟艇の中でも

効果がある、呼吸法とは船の上る時に深く吸ひ下る時に深くはく、船の

中では横臥して行ひ舟艇内では上る時膝を伸し下る時屈げながら行へば

一層効果が大きい

(ハ) 満腹と空腹とは共に避け常に適度の腹具合にある事、又船に酔つても

全然喰はぬと益、酔ふから無理しても少しは喰ふ事

十分眠る事

酒の好きな者は少量を飲むのはよいが暴飲を避ける事

便秘は禁物である、便秘して居る者は藥を貰つて通じをつける事

胸やけを起さない事、之が爲糖分や酸性強い蜜柑等は喰はない事

出来る丈甲板に出て歩行、體操等をやる事

豫防劑として役立つものは重曹錠、健胃錠、睡眠藥、ビース、仁丹等

(ト) (チ) (リ) (ヌ) (ル) (ヲ)

0323

である
右の様に色々注意する事はあるが要は自分は「船には酔はない」と言ふ氣持
が大切である、「酔ふかも知れん」「酔はなければよいが」と言ふ様な弱い氣
持の者は必ず酔ふものである、物心のつかない子供が船の旅に一番強いのは
よいお手本である。

5. 馬をいたはれ

船の一番下方の暗い蒸暑い室内に不平も言はずに軍馬が我慢して居るこ
こを忘れてはならない、熱地の航海で一番大事なのは換氣と水飼ひ馬房の掃
除である、航海が永引くにつれて人も馬も疲れて来るが、人が疲れて来れば
来る程馬は尙更らに疲れて来ることを思ひ、いたはつてやらなければならな
い。

新しい空氣と冷たい水とは熱地の航海には人同様馬にもなくてはならぬも
のである、又人は甲板上を散歩する事が出来るが馬は運動が出来ない爲に參

船の中ではどうするか

二三

0324

船の中ではどうするか

二四

る事が多いから馬房の内へ前進後退をやらせると效目がある。

6. 兵器に親しみ兵器をいたはれ

潮風と濕氣は兵器の敵である、船中は濕氣が多く又潮風が斷へず吹き込んで来る、うつかりすると眞赤に錆び附いていざ戦闘といつても使へなくなる。兵器は生きて居る、可愛がつてやり又取扱ひに慣れる程戦場でよく働いて呉れる、唯暴發させない事に細心の注意を拂はねば戦友を殺す事になる。

7. 水を大切に

水は命の親である、運送船には限られた槽の中に僅ばかりの水を積んで居る丈であるから陸上に居る時の氣持で使つては忽ちなくなる、熱地作戦で水が切れたら最後だ、海の水は無限であるから船の水も無限と考へたら飛んだ事になる、幹部以下嚴重な注意を拂はねばならぬ。

9E

0325

8. 船火事に注意せよ

船の中で火災を越す程恐しいものはない、船には多くのガソリンを積んであるから規定以外の場所では煙草をのんではならぬ、又救命胴衣の中にはカボックといふ綿に似たものが入つて居るが極めて引火し易いから火氣を近づけてはならぬ。

9. 潜水艦や飛行機の攻撃を受けたらどうするか

潜水艦や飛行機の攻撃を避ける爲には夜は暑いのを我慢して燈火管制の規定を厳守する、併し永い航海の間には一度や、二度は敵の潜水艦や飛行機の攻撃を受ける事を覺悟しなければならぬ、此の時最も大切な事は「慌てない」事である。

彈丸は仲々中らない、中つて沈む時でも各船には全部乗れるだけのボートが準備してあり各人は救命胴衣をつけて居る、落着いて身軽な服装で規定の

船の中ではどうするか

二五

く

0326

船の中ではどうするか

二六

場所に集合し上官の指揮を待つ事が何より必要である、勝手に喋る事と、走り廻る事は一番禁物だ。船が一隻だけで行動する事はないから、まさかの時には必ず他の船が救助して呉れるのと、隣の船の兵が皆眺めて居るから後で人様に笑はれる様な無態な事をしない心掛が大切である。潜水艦や飛行機は多くは晝間攻撃して来るから特に然りである。

10. 一寸の不注意も大怪我の因

狭苦しい船の中はボートや自動車や荷物や馬で一杯だ、其の中で起重機が働き勤務員や船員が駈け廻る、しけて来ると浪が甲板を洗ふ事もある。夜は真闇だ、舷梯に腰を掛け涼んで居て海に落ちたものや、船艙の入口から足をこらして轉げ落ち又は積み降しの荷物で頭を割つた例は勘くない、全く不名譽な話だ、足下に氣を付け頭上を眺め危険な場所や甲板上のボートの中には絶対に入つてはならぬ。

0327

11. 彈藥と糧食と水

上陸戦闘の一つの特色は上陸後四、五日場合によつては一週間も十日も後方から補給がつかない事である、特に今度の様に遠い海を乗り越へての戦争では仲々補給が難しい事を考へて身體の自由を妨げない限り彈丸と糧食と水とを多く携行する事が必要である。其の限度は上官から示されるであらうが暑いからといつて之を海に捨てたり、忘れたりする様な事があつてはならぬ。

12. 上陸の準備に細心の注意

上陸する際は沖合に錨を下して小舟に乗り換へなければならぬから、各兵は兵器、装具を整へて狭い所で混雑なく動作が出来るやうにすると共に上陸して直ぐ使ふ兵器の機能を點檢し屬品等を忘れないやう十分注意を拂はねばならぬ。

船の中ではどうするか

二七

0328

船の中ではどうするか

二八

第一回に上陸する部隊の機關銃、歩兵砲等は親船の中で配當せられたら小舟に豫め乗せて縛り著けて置く事が必要である。第二回目以後は綱やモッコで親船の甲板から水上の小舟に吊り下げねばならぬから砲(銃)身囊(携帶天幕を代用)、三脚架(床飯)用縛綱、屬品(携帶)箱用縛綱、彈藥箱用縛綱、吊綱等を準備する事が必要である。

著装は兵種によつても異なるが今徒歩兵著装の一例を示すと次のやうである。

- (イ)(ロ) 地下足袋をはき背囊を除き水筒雜囊を肩にかける
- (イ)(ロ) 規定外の彈丸と糧食と飯盒等は天幕に入組み背負袋として之を負ふか又は腰に巻く
- (ハ)(ニ) 小圓匙等の器具は背部の帶革に挿し又は紐で肩に掛ける
- (ニ) 防毒面は待機姿勢にする
- (ホ) 鐵條鋏は之を腰の帶革に挿す
- (ヘ) 救命胴衣は射撃を妨害しないやうに著脱部を右肩の所に置く

0329

(ト) 手榴弾は雑糞に入れる

13. 重い兵器や弾薬箱には急造浮體をつけよ

重機關銃や歩兵砲等重い兵器や弾薬箱は水中に取り落しても沈まぬやうに急造の浮體を縛り著けると便利である。

止むを得ない時は浮體を付けて二、三人で綱で曳きながら水中を前進する
場合もある。

五、上陸戦闘

1. 親船から小船に移るには

親船に積んだ小舟が水上に降されると繩梯子で移乗する、此の際は一列縦隊に並んで順序よく、間断なく降る事に注意し小銃、輕機關銃は負革を以て肩に懸けるか或は負ひ又は負革を首にかけ救命胴衣か背糞の上端に横に負

上陸戦闘

二九

17

0330